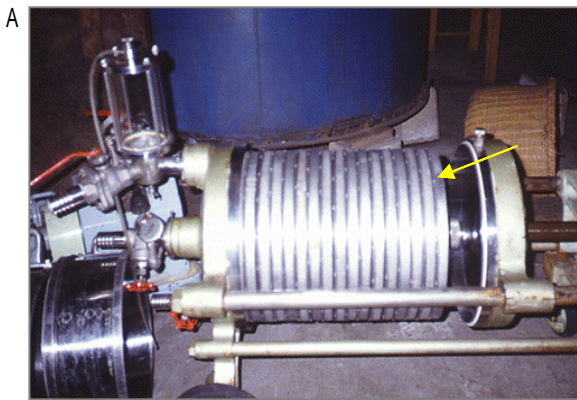


|                   |                         |
|-------------------|-------------------------|
| 【関連する職種(一般の呼称)】   |                         |
| 日本酒製造、ビール醸造、ワイン醸造 |                         |
| 【石綿製品(代表的な2,3)】   |                         |
| 石綿原綿              | 石綿含有吹きつけ材               |
| 【労災認定事例】          | 【文献(p115,122)】21-23,111 |

原酒を濾過して清酒にする時に石綿を使用しました。約200Lの原酒に0.5-1kgの石綿を投入しよく混ぜます(この時にかなり粉じんが飛散するようです)。その後濾過器に入れると、濾過器に貼ってある布に石綿は附着し、清酒が出てきます。濾過の回数は秋から春の7ヶ月間は月に2-3回、その他の月は月1回くらいだったようです(自験例の働いていたところではそれくらいの頻度だったようです)。

石綿を使うと清酒の透明度が高くなるようで、品評会に出すようなお酒には1990年はじめでも石綿を使っていた、と酒造業の方が話していました。



A 清酒の濾過に使用する道具。1枚1枚が金属の円板でその上に布をはって濾過したようです。



B 石綿を濾(こ)した後の布は洗って乾燥後再使用しました。乾いて円板状に固まった石綿はそのまま外に捨てていたとことで、その際に石綿繊維にばく露した可能性があります。



C 洋酒工場の蒸留装置。寒冷地にあるため建物の結露防止で吹きつけ石綿が施工されています。装置内に石綿粉じんが入ることはありませんが、吹きつけ石綿の劣化や損傷により、作業員が石綿粉じんにはく露する可能性があります。

掲載した写真はイメージ写真です

|                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| 【関連する職種(一般の呼称)】 |                     |
| 消防士、救急隊員        |                     |
| 【石綿製品(代表的な2,3)】 |                     |
| 石綿含有防火服         | 石綿含有吹きつけ材           |
| 石綿糸・テープ         |                     |
| 【労災認定事例】        | 【文献(p120-121)】88-89 |



【概要】消防関係者は一見、石綿とは無関係のようですが案外と接する機会があります。耐火被覆の有無や避難路確保など確認するため“消防検査”に入ります。その際、石綿吹きつけの劣化や損傷等により飛散した粉じんにはばく露する可能性があります。



消防署自体の建物も車庫などには耐火吹きつけ、張りつけ材などがあります。劣化や破損によりばく露の可能性があります。



写真は現在の防火衣・防火帽ですが、かなり以前は石綿布で紡織された防火衣・防火帽も一部にはありました。防火衣・防火帽が劣化、破損することにより、石綿にはばく露した可能性があります。



ホースも高圧の水力には破れないように金線や石綿が入っているものもありました。同じくビル内の廊下の壁などに収納されている消火栓箱も裏面などは耐火構造になっています。これらの石綿含有の耐火製品や耐火物が劣化・損傷等することにより、飛散した石綿にはばく露する可能性があります。



ポンプ車。圧力をかけますので、ゆるいネジ山や継ぎ手があれば水が漏れてしまいます。そこで以前は、石綿糸やテープが使用されており、補修・交換時にはばく露する可能性があります。

掲載した写真はイメージ写真です